様式 C-7-2

自己評価報告書

平成２１年５月２５日現在

研究種目：基礎研究（C）
研究期間：2006～2009
課題番号：１８５２０６２７
研究課題名（和文）：東アジアの水産資源や漁場利用慣行に関する比較研究
—民俗知モデル構築をめざして—
研究課題名（英文）：Comparative Study about both Marine Resources and Fishing Ground Use Custom of the East Asia: for the Local Intellect Model Construction

研究代表者
李　善愛（LEE SUNAE）
宮崎公立大学・人文学部・教授
研究者番号：90305863

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：文化人類学、文化人類学・民俗学
キーワード：アマ（海士・海女）、資源管理、漁場利用、民俗知、環境問題

１．研究計画の概要

本研究は、日韓両国の地域別アマ（海女・海士）の漁業と生活について社会・経済、宗教、生態との関係から総合的にみることで、日韓両国の水産資源と漁場利用慣行について海域別「民俗知」の特徴を明らかにする。

２．研究の進捗状況

(1)　2006 年４月から 2009 年５月現在、韓国の東海岸・南海岸・西海岸地域と日本の九州・四国・中部・関東や東北地域の一部沿岸漁村を中心に調査を行ってきた。そこで日韓両国の漁村社会において水産資源利用におかれている共通した大きな問題は環境変化などによる資源減少、漁業担い手の高齢化、密猟、漁獲物の流通問題である。
(2)　環境変化などによる資源減少に対する漁業共同体の対応は各地によって異なった形で対策を講じているが、大きな特徴は養殖である。担い手の高齢化は村のインプラの整備で外地に出ている若手の帰郷しやすい環境を作っている。また、海女村であったところには若い海士が参与する数が年々増えつつある。
(3)　密漁に対する対策としてはアクアランクなどの機械を利用した漁に変え、操業時間や操業時間を短縮して資源枯渇にならない方策をとっているところもある。
(4)　自然環境や社会経済事情により商品となる資源が減りつつある。一方、商品になるものであっても僻地の場合は一般流通ルートにのれず購入単価や生産量が仲買人のなすがままにされている。

３．現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。
（理由）
調査対象者のインタビュー調査の断り、台風の影響による調査の断念以外は計画とおり順調に進んでいる。

４．今後の研究の推進方策

(1)　2010 年３月までは日本東北地域と北海道、韓国の北部沿岸地域の調査と、台風などによる調査が実現できなかったところや補充調査の必要なところへのインタビューと参与調査を行う予定である。
(2)　調査で集めた資料を分析してまとめたのは出版物として出す予定である。
(3)　環境変化、社会経済による影響で資源として利用されたものが無くなりつつあり、それによるローカル地域の資源利用形態もかわりつつある。今後は水産資源として利用されなくなったもの、無くなりつつあるもの、これから新たに利用できるものへの調査研究が必要である。また、環境問題、後継者問題などの諸問題を解決していく方法として、さしあたり現場をよく知っている漁師、行政、ローカル資源の商品化と販売のための NGO 団体、貝類や海藻類など海の生態関連研究との連帯による共同研究の可能性を今後探っていきたい。

５．　代表的な研究成果
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計６件）

① 李善愛、「韓国における海洋・水産教育の現状と問題点」『人と海洋の共生をめざして　150 人のオピニオンⅢ』、2007 年３月、pp.278-279、査読無。

② 李善愛、「地域文化の生成過程-鯨とのかかわりをとおして-(1)」『宮崎公立大学人文学部紀要』14-1、2007 年３月、pp.35-52、査読無。

③ 李善愛、「鯨と関わる韓国地域文化：蔚山市長生浦村調査事例を中心に」『立教大学日本学研究所年報』６、2007 年４月、pp.121-142、査読無。

④ 李善愛、「韓国セマングム干潟の干拓事業と漁民の生活戦略」『宮崎大学人文学部紀要』15-1、2008 年３月、pp.15-28、査読無。

⑤ 李善愛、「近代化と対馬海流域アマ（海士・海女）の漁業戦略」『宮崎大学人文学部紀要』15-1、2008 年 03 月、pp.29-46、査読無。

⑥ 李善愛、「鯨を食べる文化：浦項から釜山まで」『立教大学日本学研究所年報』７、2008 年８月、pp.106-113、査読無。

〔学会発表〕（計４件）

① 李善愛、「対馬海流域アマ（海士・海女）の漁業活動-水産資源の持続的利用のための可能性を探る-」『第 49 回地域漁業学会宮崎大会』、宮崎公立大学、2007 年 10 月 27 日。

② LEE SunAe、‘Henyo in Korea and Ama in Japan: changing lives of the Divers Fishermen at the Tsushima Current Coast’, The Scientific Committee of the 31st International Geographical Congress. Tunis, Le Kram Congress and Exhibition Centre, the 14th August 2008.

③ 李善愛、「朝鮮半島から戦争のテクストを読む：蔚山捕鯨村の事例を中心に」、宮崎公立大学、2007 年 11 月９日。

④ 李善愛、「東アジア沿岸地域の海洋資源利用に関する生態人類学的研究」『韓国文化人類学会創立 50 周年記念国際学術大会：超競争時代の文化と人類学』、ソウル大学、2008 年 11 月 15 日。

〔図書〕（計２件）

① 李善愛、『自然は誰のものなのか：共有に関する歴史・生態人類学的研究』、新しい人びと、2007 年４月、全 249 頁。

② 李善愛、『宮崎産水産物の流通と消費の現状と課題』、ヒダカ印刷、2008 年４月、全 225 頁。